

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502181		
法人名	株式会社 グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン南の沢		
所在地	札幌市南区南沢1822-63		
自己評価作成日	2026年1月10日	評価結果市町村受理日	2026年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502181-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2026年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①利用者本位とし、自立支援を重視しております。各利用者の状態に合わせた介助や歩行能力の維持、IADLの能力継続として家事等の手伝いを役割を行っております。医療と連携し定期的な内科医による訪問診療、訪問歯科、訪問看護、口腔外科の訪問診療を行い異常の早期発見に努めております。過去の集団感染の教訓から感染症の予防に力を入れています。</p> <p>②家族との連携・交流：普段より生活や体調についての連絡・相談をこまめに行っております。利用者からの要望についても家族と連携し協力をいただいております。</p> <p>③地域貢献・交流：地域に根差した運営を行い、地域住民の理解と協力を得られるように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かで閑静な住宅地に位置する木造2階建て、1ユニットの事業所である。周辺の景観を満喫できる桜並木の遊歩道を散歩コースとし、遠足のドライブでは定山溪方面や十五島公園、平岸に藤の花を見に行くなど季節感を味わう外出を行い、職員と一緒に個別の買い物支援も欲しいものを直接手に取り選ぶ楽しさや満足感となっている。地域交流は感染症流行期より留まっていたが、利用者の生活の幅や質向上に向け、運営推進会議のメンバーから具体的な交流の提案も受けており、次年度の取り組み課題としている。管理者はチャットツールを活用し、職員との相互の信頼構築と業務の円滑な遂行を確立しており、管理者不在時においても対応可能となるよう業務分掌の推進や法定研修を軸とした職員主導の研修を開催し職員を育てる取り組みにも力を入れている。適切な医療を受けられる支援の他、ケアマネジメントに「OODA(ウーダ)ループ」(観察・判断・決定・行動)を取り入れて効果を上げ、家族からも高評価を得ている。毎日、1人の利用者に焦点を当て、職員が気がついた事柄をチャットワークに入力し、全職員共有化の元に課題解決が図られている。帰宅願望のあった利用者では台所に来て何かすることはと、主体性が出てきたり、精神不安があった方では決まった環境リズムの提供と会話の充実により落ち着いた生活が可能となった利用者もいる。グループ法人のバックアップの下、温かい介護支援に尽力している事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員がいつでも確認できるようホールの見やすいところに掲げてある。年度初めは理念について具体例を提示し研修している。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ3項目の理念を標榜し、事業所内要所へ掲示している。理念の実践においては、ケアマネジメントや支援等に活かされ、事業所全体のものとなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・民生委員の方々に定期的に運営推進会議に出席していただき情報交換をしている。地域の行事等に参加し地域と交流を図っている。	活発であった地域との相互交流は未だ滞っているが、町内会回覧板で地域情報を得たり、今年度も近郊の果樹所有者の協力が得られ、利用者がさくらんぼ狩りを楽しむ事ができている。	次年度、福祉会館でのイベント事への参加やボランティア来訪について、取り組む考えを示しているので実施に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進運営会議に出席して頂き認知症への理解を深める話の場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや、利用者ご家族様、その他の知見者に参加頂き助言や指導を頂き、サービスの向上に活かしている。	地域包括支援センターはもとより、開催月によりメンバーの違いはあるが、民生委員、調剤薬局、家族の参加を得て開催し、事業所からの報告も詳細である。利用者の生活の幅や質の向上に資する提案等も受け、サービス向上に役立っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課の担当者様と連絡・相談の他、区の生活保護課や介護保険課と連絡を取り合い協力関係を築いている。	管理者は、適正な運営の維持に向け、市や区の担当者と協働関係を築き、適宜、情報連携し実態に即した適切なサービスの運用に尽力し、保護課とも連携を密にし生活等扶助の円滑化に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外玄関については、防犯上施錠をしている。身体拘束適正化委員会、身体拘束に関する研修において、3原則と禁止11項目について全員周知徹底しており、拘束を行わないケアを行っている。	身体拘束適正化に係る指針に基づき、身体拘束適正化委員会を定期に開催している。これらに係る年2回の内部研修は資料の読み込みや動画視聴も用いて学び、職員全員レポート提出している。外玄関は防犯上の理由により施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会、虐待防止研修を定期的開催し、虐待についての認識を共有し、虐待に繋がらないようなケアに努めている。		

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者1名のキーパーソンが保佐人(弁護士)となり、普段より、成年後見人制度について周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書の説明を丁寧に行い、疑問点についてもその場で理解頂くよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様が面会時や運営推進会議時に全ご家族へ要望を募り、要望があれば運営議題として諮るようにしている。	家族へは本部管理のSNSで利用者の様子を発信し、個別には面会時やEmail、電話にて要望や意向を確認している。利用者からの要望も(訪問マッサージの回数を増やしたい、寝具が欲しいなど)その都度、家族と相談し対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会の他、随時職員の意見や提案を検討しサービス向上に向け反映させている。	職員とは、チャットツールを活用し意見や提案、情報交換や連携の円滑化を図っている。月例会議の他、職員が交代で主導する法定研修を基盤とした研修会の開催や業務分担に力を入れ、管理者不在時の対応力を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容の調整や職場環境の改善を日々行い安心して継続的に勤務できる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々法定研修等を通じ研鑽に取り組んで頂き、職員の認知症実践者研修の受講等も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者連絡会等を通じ、他の事業所との意見交換等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活環境で不安な新規利用者に寄り添い、傾聴し本人の発した言葉(不安・要望・拒否)をそのまま記録に残し職員間で共有し、思いをくみ取り早く信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様も心配されることと思われるので、入居後、ご家族様と連絡を密にし、本人が安心して暮らせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、訪問歯科や訪問マッサージやその他のサービスについて説明し必要に応じ手続き等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを把握し利用者の状況に合わせ掃除・洗濯・家事など一緒に取り組んでおります。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外部受診や、利用者本人の要望された物の購入等はご家族様にご協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親族や以前からの親しい方との手紙のやり取りや電話連絡等については、スムーズに行える様に支援している。	面会は事前連絡の元に居室で対応し、電話、手紙の取り次ぎや携帯電話で自由に通信する利用者もいる。家族との外食や買い物に出かける利用者や職員が同行し墓参に出かけた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時間等、食堂で皆が一緒にいる時間など、職員が入り歌を一緒に歌ったり、体操したり、皆で楽しめる時間を作り、皆が仲間であることを意識できるように取り組んでいる。		

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があった際は、以前と変わらず良好な関係を保つよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の些細な言葉や様子の変化、表情を観察し記録に残し、職員間で共有し課題解決を図っている。	利用者の言動等を観察し、記録にて情報共有し思いの把握に努めている。毎日、利用者1人のOODAループに取り組み本人本位の支援のあり方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の過去の生活歴を把握し、それぞれの生活に合わせた生活環境を営めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活の状態、身体の状態(バイタル)、表情を観察し、その状態に合わせた支援が出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から利用者のモニタリングをOODAループを用いた状態と課題の把握をし、ケアプランのモニタリング・評価に活かしている。	職員全員によるOODAループの活用により、重要部分の明確化、焦点化がなされている。パーソン・センタード・ケアの考え方を軸にした本人主体の安心できる暮らしの介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様各記録を介護記録アプリで記録し職員で情報共有を行っている。それを基に介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況により受診や入退院の対応が難しい場合は職員が対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のイベントや行事に参加させていただいたり、散歩等にお声がけ頂いたり地域の方々との交流させていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医からの治療についての大きな変更や情報についてご家族様へ説明し齟齬が無いようにし、適切な医療を受けることが出来るように支援している。	協力医療機関による内科、歯科の訪問診療や訪問看護の他、精神科、脳外科、整形外科、口腔外科の各種医療機関と関係を築き必要な医療が受けられる体制を整え、家族とはその都度、情報共有し対応している。	

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時等やその他の必要な相談は訪問看護師と連絡が取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は、入院中の状態について連絡や面会にて情報を共有し、退院の見込みの相談等を病棟看護師や医療相談員と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族が希望された場合は、重度化対応・看取りに関する指針に基づき、関係医療機関やご家族様と協議し支援できるよう取り組んでいる。必要に応じ研修を行っている。	重度化対応に関する指針を定め、利用契約時に説明し同意を得ている。重度化にあっては、関係医療機関の医師や家族と協議を持ち、今後の方針を取り決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、応急手当・救命訓練を行い、すみやかに医療に繋がれるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や非常災害対策計画、BCP自然災害の研修と訓練を行い、職員が日常より防災意識を高めるよう努めている。	12月札幌市防災協会立ち会いを得た夜間想定火災避難訓練、8月は同種別の訓練に地震想定を加え実施した。協力者、災害備蓄品を確保し、9月BCP研修を実施している。	緊急時における特定技能生の対応力充実に力を入れる事としているので実行に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人が尊厳を保ち自立した生活が出来る様支援し、プライバシーの確保が出来る様な対応を行っている。	理念の要旨に誇りのある生活、人間らしい生活を謳い職員は言動に留意し介護支援に努めている。プライバシーの確保では、居室を出る際に本人自ら施錠する利用者もいるなど自由な暮らしづくりが窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの働きかけでなく、利用者から発信したり、選択、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の思いをくみ取り、可能な限りご本人のペースに合わせた支援が出来る様に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様にご協力を頂き季節にあった衣類を準備して頂いたり、入浴・起床後の身だしなみを整える事を支援している。		

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態を見極め一人一人に合わせた形態で提供している。苦手な食材が出た時などは要望に合わせて、別のもので替える等をしている。無理のない程度で準備や片付けも一緒に行っている。	業者の献立を活用し行事食も反映された副食が届いている。主食と汁物は職員が調理し、利用者も出来るところで食事作業に関わっている。菜園で収穫した野菜を取り入れたり、BBQ、行事の際の手作りおやつ、外食では回転寿司に出かけ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分量は個人別にタブレットで記録管理し、水分量に応じゼリー等の提供等を行っている。また個人の状態に合わせてロミ対応等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っており、自力の方も仕上げの介助を行い、舌ブラシや口腔ウエットティッシュを用いた介助も行っている。就寝前に義歯を洗浄剤につけ保清を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し時間でトイレへ声掛けし誘導を行っている。	自立している利用者もいるが、一人ひとりの排泄が困難な部分をチェックし習慣やパターンに応じた個別の支援に努めている。個々の排泄状況はタブレットで共有し、事前誘導の際も言葉かけに配慮し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録もタブレットで管理し、排便状況に合わせて水分摂取をするよう働きかけを行っている。予防としてストレッチやみそ汁の食物繊維の提供を進めている。便秘時は状況に応じ訪問看護師により浣腸を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日で決められていますが利用者様の身体状況や体調、要望により入浴方法や時間の変更を行っております。また足浴等も行い入浴を楽しめる様支援している。	水曜・土曜日を入浴日に定め、1人週2回入浴している。無理強ひせず臨機応変に対応し、本人の安心と満足につながる入浴を支援している。湯船に浸かるのが難しい場合は足浴で温めつつシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が安心して休息できる環境を提供できるよう居室の清掃やベット環境の整備を行っております。利用者様のペースに合わせてベッドで休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬局と密に連携し、利用者が飲みやすいよう薬の形態を調整し、処方に変更になった場合も様子観察と記録の情報を共有している。誤薬事故がないように個人別の錠剤数もチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が安全に楽しめるようなレクリエーションを実施している。室内では馴染みのレクリエーションを行い、散歩や外食等、楽しんで頂けるように季節毎の行事を行っている。		

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の際には家族と連携をとり、外出の準備・支援を行っている。レクリエーションとして外出・外食や、散歩、また利用者の要望により買い物外出支援等もおこなっている。	事業所周辺に桜並木のある遊歩道があり季節の良い時期の散歩コースとなっている。ベンチでの日光浴や家庭菜園、外出レクでは定山溪方面の紅葉見学や平岸の藤の花見学、十五島公園に花見に出かけている。買い物は個別支援で出かけている。家族と外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の要望により、金銭管理が行える利用者様に関しては少額の現金をご自身で管理して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡がとれる様本人で携帯を管理して頂いております。連絡方法がわからない、管理が困難な利用者様に関しては、施設の電話を使って通話の支援を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度、湿度の管理をしリビング等の共用部分についても清潔を保ち、感染症対策として換気も行っている。季節感のあるディスプレイ・作品作りの掲示をし、安心して過ごせる環境づくりを行っている。	大きなL字型の窓からは景観も望め、階段も居間から登り降りができ開放的で明るいリビングダイニングルームである。利用者は好みのテーブルで過ごし、季節感ある作品作りや新聞切り、毎日の体操、言葉遊びなど馴染みの職員と慣れ親しんだ室内レクリエーションを一緒に楽しんでいる。家庭的で安心できる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がいつでもくつろげるように、ソファを随所に配置しており、リビングでも自由な時間に利用者同士が会話できる環境を提供しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人様の馴染やお好みの物を配置し、ご自宅で過ごされていた環境のように、居心地の良い、安心できる環境を整えております。	利用開始時に持ち込まれたサイドボードや筆筒、仏壇やゲーム機器はそのまま大切な品々として保管、活用がなされている。自室で編み物やジグソーパズル、ミシンで小物を作る利用者もいるなど、本人の望む暮らしや環境を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に声掛けを行い食器拭きや衣類のたたみ、居室やリビングの掃除、モップ掛けのお手伝いを促し、職員が見守りをおこない、生活機能が保たれるよう働きかけております。		